



「見たり、聞いたり、探ったり」No.312 通算 No.463

「出雲大社相模分祠」令和八年二月三日(火)節分祭に参加して「秦野市平沢1221番地」

青木行雄

令和八年、二月三日は素晴らしい天気、神事にふさわしい一日であった。新宿から小田急ロマンスカーで約1時間。快適な時間と車窓に見る風景は、大都会からだんだんはなれる町並と目に飛びこんで来る山並の景色、これから緑の新芽が用意されている木々の様子、春の訪れに心を馳せながら、秦野駅にて下車した。

出雲大社相模分祠より御案内の文面

謹んで新春の御祝詞を申し上げます。

年頭に際し、貴家の益々のご清栄をお祈り申し上げます。

さて、来る二月三日の節分祭に際し、皆様の厄除招福祈願祭を齎行し、しかるのちに豆まき神事を執り行います。

節分祭には善男善女・年男年女の参加を募集しておりますので、ご案内申し上げます。

ダイコク様のおかげをもちまして益々幸多き一年となりますことをお祈り申し上げます。

令和八年 新春

出雲大社相模分祠

分祠長 草山清和[㊞]

場所 出雲大社相模分祠 秦野市平沢1221

初穂料 一万五千元(一名様につき)直会(会食)・

期日 令和八年二月三日(火)節分(雨天決行)

福引抽選会あり

◆ 十三時三十分受付 100人

◆ 第六十三代横綱旭富士(元伊勢ヶ浜親方)

◆ 十四時三十分神事 十五時三十分、豆まき

(現宮城野親方)

伊勢ヶ浜部屋の関取、多数参加予定

※ お車でお越しの方は専用駐車場をご用意致します。

※ 秦野駅より当社までのシャトルバスも30分おきに運行しております。

以上

出雲大社についての話を下記に記す。

古くから「日本大社」といわれ「天下無双の大^{てんかむそうたいか}廈」と称せられた程に日本国中で一番大きなおやしろという意味から、社号を「出雲大社^{いずもおやしろ}」と冠しています。出雲大社は、御祭神大国主大神が神代の昔この国土を



出雲大社相模分祠。正面が神社。大きな「しめ縄」が大社の特徴である。



大きな鳥居を通り神殿へ進む。人出が多い。



神殿へ向う神事に参加の人達である。



参拝の多勢の人達。豆まきの台の上から写す。



出雲大社相模分祠記念館。結婚式場や直会などに使用される。



新年の垂れ幕がかかっている。(記念館)

おひらきになった御功績を天照大御神がお慶びになり、特に大神のために、柱は高く太く板は広く厚く、高天原の宮殿の如く、同一の規模形式の宮殿を、宇迦山の麓におたてになったのが初発であります。

多くの神々がお集りになって築かれた故事を重じて、「杵築宮」ともいわれます。^{きづきのみや}

「底つ岩根に宮柱ふとしり、高天原に氷木たかしりて」と讃えられた。神代の姿そのままを仰ぎみて、鎌倉時代のはじめに、この社に詣でた、寂蓮法師は、「やはらぐる光や空にみちぬらむ、雲にわけ入る、ちぎのかたそぎ」と詠み、本殿の高大さに驚嘆の眼をみはっています。神社建築様式の「大社造」として独特な社殿のために「国宝」に指定されています。

壮大な本殿の偉容は、まことに御祭神の広大な御神徳に相応しく、従って御別名も二十指にあまり、大神の御力によって、生きとし生けるものが、しあわせになるように働きをうけて、農耕の祖神・漁業の神・医薬の神・殖産の神・温泉の祖神などと申上げて、人々の生活が豊かになるように、お導きになっていますが、特に、“縁結の神”としての信仰は世に知られるところであり、^{かくりよのおおかみ}又幽冥主宰大神として、後の世の人々のみたまをおまもりなされる神でもあります。

出雲大社が創建された時と共に、御杖代として奉仕された天穗日命は、^{あめのほひのみこと}天照大御神の第二の御子で、後に出雲国造となり、道統連綿として、現千家宮司は八十四代の裔であります。明治の御世に、出雲大社の大宮司であった千家尊福公は、神社が国家管理下にあつて、御神徳の布教が出来ないのを遺憾に思



立春大吉ののぼりの前で談笑する力士達。中央が草野から名前を変えた「義ノ富士」



節分豆まきの台場に入る力士や関係者達。福は内、福は内。ここに私も登った。



直会で挨拶する義ノ富士と力士達。



義ノ富士と2ショット。熊本の出身。本名、草野直哉さん。

い、御神徳発揚の機関として、今の出雲大社教を興し、その傘下に教会・講社を持ち、その使命に向けて邁進をしています。

出雲大社相模分祠の創建について

相模分祠は、1888年(明治21年)に大社島根県に鎮座する出雲大社第80代国造・千家尊福公に請願し、秦野市平沢の累代の神職であり秦野煙草の祖と仰がれる草山貞胤翁が大国主大神の神徳を関東地方に広める為の要所としたのが始まりである。

出雲大社相模分祠は相撲の神様ともゆかりが深く、初詣節分祭には伊勢ヶ濱部屋による横綱日馬富士・横綱照ノ富士や関取たちが毎年来社し盛り上げて、30年以上になるという。

15年程前にこの神社の草山宮司宅の銘木を楠戸氏が納入し、私も紹介を受け節分時のお付き合いが始まった。毎年節分には伊勢ヶ濱部屋の関取との豆まきが実に楽しみの一時である。

こんなわけで今年も参上し、伊勢ヶ濱部屋の関取にお会いしたが若手が上席し変化が大きい。大相撲人気も増々上昇、今初日には全日の席が「満員御礼」である。

今年の節分は天気も最高ですばらしい一日で、今年一年、人災、天災も無く幸せな一年でありますようにと祈願して、秦野を後にした。

記 令和8年2月22日